

六家集

月清
四終



式部史生秋藤月清集四

祝部

女御入内月次御屏風此哥

第一帖

小朝孫列立軒

三つしるき升の表は徳人此袖とつたる庭よはわ

野を過小松原よふ日と別軒

春月小ねの雪と引うてはくあ世は花園よりわ

山野の霧立ちまらわらる軒は長衣は袖あり

さうゆゑやあを運ばれはあのかうて庭よはあはれ風

第二帖

花竹の間も常にお祈り家とあり



心遊るのく此部よりそのれあぬ名好
草蒲くわしふ所人家の昔月くわあ
わわ

風よりそむて此れはよるは也折れあやあ響白
人家の庭より瞿麦さけくわ所
ゆをのうらよえう種ゆくさなれ花盛ゆさこれ

茅六帖

山升の巻より人く納涼さくわ所

泉わわ

山けやむら志多れはけは秋とよまらるる下風
野色は杜圃よりなむの初ふ所

まふ人よりふ入るなふくしとそ野はけく杜はく葉

河邊より六月紙川より所

夏より紙より六月紙より川より所

茅七帖

山野より人家秋風さくわ所萩

夕よるの野山より夕よるの秋風さくわ所萩

野花さくわより夕よるの秋風さくわ所萩

わわとくわ所とわわ

秋の野はよるの多紙りるよるの秋風さくわ所萩

山野并林間麻より所

春日山松の嵐より急よりて麻より年此秋と告之

茅八帖

人家池邊人く翌月所

冥翁陳時念上社乃社以儀也

今一の川をさして流る海流の三葉袖の雲の如く
野をさして流る物一の如く所

くふれぬあすはわらわらむは東枯野此より
芽十二帖

内務所御神系

さだま神さくればわら月さゆる夜は志早は夜

山野竹樹さくれば言さく後さる人家あり

あめやうの及まぬりかりあり此の言の如く

歳言あり下人お山よりなるさりてつる所

ふ世経くふねく山とあめりま細くさひ下はつれ

沿縁沖屏風装

樹陰細涼

葦草れ風よふふあふれ秋れさうきあめは森

冬

池上氷

池水よさけるさくはたりしてあめ月れじさりたり

院よく入道擇所九平賀路もせさる屏風

屏風

春帖

春

春雲志のよ衣さるわらわらさくさくん天れく山

若草

水音節ハ草れさくさくあめ細く緑れさくさく

記

老く分りし人そらふ時と南ちりひるの光

夏枯

郭公

う所折るやあのみ郭公之輪れ捨るをうらむ也

六月毎

と山田よひくぬれ縄杖らうて括やあみ今月毎

納涼

紀比國やあみ杖をうらむの原けうらむの原けうらむ

秋枯

秋野

さうりのみ秋のちあはれはしんあてあはれしん

月

けは秋の月人可憐之を思ふは月見の事

紅葉

山廻りつらき紅葉の事思ふは秋の事

冬枯

千鳥

と鳥ちりつらき千鳥の事思ふは秋の事

氷

と氷の事思ふは秋の事思ふは秋の事

雪

と雪の事思ふは秋の事思ふは秋の事

今上二品交むるは秋の事思ふは秋の事

續後撰

盃とりてよらん

先うよを井の月細足さし山の世はくぬく此は
申文初夜御令よ月契秋久
美代乃月と秋の走ると後ねらうりよあそそ
庭梅久芳

ワソ袖より梅の香細くあよ花のくせよまを
波新野の後初夜今よ松延齡女

うよあそそとくあそそとくあそそとくあそそとく
大長乃後初夜今よ松不海色

まよれんとくあそそとくあそそとくあそそとく
春日山伏松よよあそそとくあそそとく

くりりあそそとくあそそとくあそそとくあそそとく
朝日也

祝乃あそそとくあそそとく

くねる海の母のうらみはなれははぬあそそとく
あそそとくあそそとくあそそとくあそそとく
あそそとくあそそとくあそそとくあそそとく
あそそとくあそそとくあそそとくあそそとく
あそそとくあそそとくあそそとくあそそとく
あそそとくあそそとくあそそとくあそそとく
あそそとくあそそとくあそそとくあそそとく
あそそとくあそそとくあそそとくあそそとく

あそそとくあそそとくあそそとくあそそとく
院お鳥羽殿初夜御令よ地上松風

あそそとくあそそとくあそそとくあそそとく
院撫子合令り宮神祇祝

あそそとくあそそとくあそそとくあそそとく
院十番あ合神祇

神風や山麓懼川笑と流るるわのきそわのきそ

同存松

庭れそと思ふもくさきり代もせよ松林のよきか
院乃歌信り松邊千鳥

るゆ乃松林あしてのまき馬のまふ母れまきそん

家文合よまき祝

春日山麓南志うをせよわ乃散るまきよあふな

院神合よまき祝

けりといふもくさきり代もせよ松林のよきか

味文前より初夜神合よ松月歌源

松をよわわ秋と笑と流るる月よほよ和言れ人

城南寺より初夜神合よ社以祝

民の心許れあつてはるるよ初夜南文合せりわ

高陽院初夜神合よ松をまき文

よまきそと思ふもくさきり代もせよ松林のよきか

恋歌

高陽院初夜神合よ松をまき文

氷折るまきの吹去風のしらけたよ人初夜を

白せりまきの吹風のまひの城南をまき

思ふあつてはるるよ初夜南文合せりわ

笑言秋恋

秋の心笑言秋恋

山野文哥合よ久恋

破乃まきつる初夜わぬれ文よあふあつてはるる

山々の麻乃さ衣かき細ありわくそ月日や松の影

故々意

續拾遺
ささゆへと契してとめたるよ昔よりこれ松をそ吹人

旅泊

ゆへもたのめぬ破乃り松ひかけ此松の縁ぬ夜ぬ

圓海意

ワリ系やよのよと圓と流山すらうよ神地くは志られ

海邊意

らりワリれとよすむ虫のよまもせまも海はあゆみ恨もつ

河邊意

河邊川ありこも波は流乃らんよとのれさけそ言さ

さあ雨意

らぬ人衣約夜うされ行乃ぬよ月とよまもそワリは流

空の風意

獲平やよまよ同く秋は風物ぞかれらつてひひのよ

院撰方合り遇不奉意

續古今
志りしそあぬ東の海とよまもそこれ試みの月と約

院新供方合り丑意と

續後撰
此院同ひく玉藻の下起らうや心みくあてれ

同新供高元よ月新意

ワリつらう約らうひひかけなりさや八瑛り山嶽

同新供り依也増意

と此之と袖地下水志る此にむせよ中ひれさうそ

同新供旅曉意

ワツツ乃風の吹くまじくやまをさびしむる此種の後

秋より初夜及新儀は初夜

此の種のり此種ありまらむじきと云ふ人の

久慈

那波人いづらにすかす人ありまは妙と云ふ

家撰の合り夏夜

くせいのき福のりまらむ此種ありぬ神と云

家命より夏夜終夜

いづらてあつ山の来れぬまらぬ夜と云ふ

宇治より院御命又育中夜夜

約ワひぬまらむと云ふ山法師より此種あり

小野文の合思夜

ワツツ乃風の吹くまじくやまをさびしむる此種の後

鞆の鞆部

鞆のりより中一

此の種のり此種ありまらむじきと云ふ人の

久慈

那波人いづらにすかす人ありまは妙と云ふ

家撰の合り夏夜

くせいのき福のりまらむ此種ありぬ神と云

いづらてあつ山の来れぬまらぬ夜と云ふ

宇治より院御命又育中夜夜

約ワひぬまらむと云ふ山法師より此種あり

小野文の合思夜

口をわたりて折面けはもろくも海をた月
院うて南をたは旅りんと

旅人そのついでと縁してきよははる山はけん
兼部

五約とよめり本

夜経ら梅原の海はひのこころは此海流のつら
火

羊之し野はくよのちの世の想とわす也々わ
七

とよくそまはるるあひまふちくひのこころはけ
金

あし世海へあつてはきよらりの佛とみく産てわ

水
清くまじみれはのじきり葉はなはる月の鏡

東
月をりよはかおつたはたおた人のおちあはる

西
秋風と月乃をともはれきあはれあふうさる也々わ

南
玉つる海流しん里は秋をい道よしよはりわはる

北
うさうさともはるるあはるけりて用らるるあはる
中

ひりり都志布らげ里へこころの国はり中世々わ

き

故あふ思祿の昔れあまも松の本陰とくつせも

黄

秋のりの光の海とましく菊井枯野の長と海とあふ

赤

赤祿さす花の日は秋とてあふまあふ志は川と

白

新うつひの川とあふまあふ松の原と月とあふ

黒

きうつさすや海のとりの園と祿とあふ

暁観佛

暁の暁の空とあふまあふ情れと月とあふ

夕陽絶

いりあひのこの喜もたふされと法はあふ

秋尋僧

深あひあふまあふや原とあふ志は川とあふ

暁

あふまあふと追と暁の海と園とあふ

山家のうらみ

独ははな山とあふまあふやかすまへとあふ

あふまあふとあふまあふとあふまあふ

あふまあふとあふまあふとあふまあふ

あふまあふとあふまあふとあふまあふ

あふまあふとあふまあふとあふまあふ

冬

山田屋まはりの雪は花の如く散りては花の如く散る

散るの

急

急をいづくゆへに約するもわづらひに急をいづく

急

夏よりよわく初ぬれまゝ秋に初ぬれぬ月をさす

秋水とよめる

夫乃川をわや最なる人白き髪つゝ此乃水上

和羽林次将大原之作

ありぬの月約山の麓よりうき世の風をいづく

今利海次思と

海くろくのかきひのまやうはあやうし 柳屋のまやう

いづれにわかれぬの月城をて我がのこゝろを

屋より月をいづくはあやうし 柳屋のまやう

いづれにわかれぬの月城をて我がのこゝろを

急

急をいづくゆへに約するもわづらひに急をいづく

急をいづくゆへに約するもわづらひに急をいづく

急をいづくゆへに約するもわづらひに急をいづく

急をいづく

急をいづくゆへに約するもわづらひに急をいづく

急をいづくゆへに約するもわづらひに急をいづく

急

ら初めやぬか神子もさきくれられ誠計はらまのふ
ちとぬそのののたのめあはれ立之れくもの風
院よりあふの御命よはれ

任そりの神やゆきよのてんてんはくくはれぬの
一町のまふよりまふよりくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

表傷部

差哉故内府墓所を懐旧のころと

うくくくくく

山里は神の御霊のまをさし昔とくくくくくくく

あ

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

まはるのちくくくくくくくくくくくくくく

はれよふくそれはとふれはとふれはとふれはと

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

樟中細言道宗母くくくくくくくくくくくく

三位入道の件くく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

あ

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

五孝部

前内相府迷冥一辞東閣之月永化

小邨くく燧以来去文治第四くく春忽

入我夏以呈詩句、建久才三之
春又入人身和語、只傷永夕之
別是也兼用曉之詞實知波波之
長湖積泉壤之眠自驚若其家
依心棘之雜柳也各長迷思而已
下着の表れ列連の多きさうに眠れは
一月十八夜山法平此淨へ行り
さうさけぬさうて昔年一人
お

いふのけの宿よすむ月心とやわははは
西行法炸子南りりまの次の
朝長の淨へ行りりり

去夏の冬に花散りて露法一人此名おのり

花の下に花よきまし表はうてあはれ者よわゆる人

定家朝長り母り申法二月尽よあさり
うらよはらりりり

去夏の子年一光のあはれまふよとまかり此朝長り

口れり所此々言よきましてきて此書序恨とる
親性法橋りりり後には西山の往生現
まそ法師りりりりりりりりりりり

新元正

人乃の秋のあはれまふよとまかり此朝長り

か

ふわり昔は秋ハ午もあつたから昔は...

後乃世はあつたはるな夏は由縁...

神祇部

伊勢...

秋風や川意とて川流のこゝろ...

續後撰

いざゆめ塩干に...

けつろり...

くまのいづこも...

なつらるる...

日吉七社 本地

大宮 釋迦

いづの鶴の林...

二文 薬師

朝日...

續後撰

聖真子 阿弥尼

たどくして世にたどぬれはまじりていかにてん

八王子 千手

枯らつて後よ新のたねをいし新の世にまのい

客人 十一面

家よ又よ新のたねをいし新の世にまのい

十福師 地蔵

このりよ新の世にまのいし新の世にまのい

三文 普賢

みよ人のいよ新の世にまのいし新の世にまのい

院 春日社 春日社 春日社

あはれんよ新の世にまのいし新の世にまのい

釋教部

續古今

舍利海に次よ十地是と相

初めよ鏡のよ新の世にまのいし新の世にまのい

性

續拾遺

海よ新の世にまのいし新の世にまのい

新

新釈

善の世の世にまのいし新の世にまのい

力

よ新の世にまのいし新の世にまのい

作

日新の世にまのいし新の世にまのい

固

多新のまは佛の身と成ぬ一きんが 此の

縁

岸の風のさくよめよまくるはあはれ

果

秋のくさくさなまをよまくるはあはれ

報

さよふくせいの罪のつとめよまくるはあはれ

中未究竟お

と情のありの業とよまくるはあはれ

内秘言のさし

拙のさくよめよまくるはあはれ

今利海と

祿のうぐいすの月とあつうや 縁の山は此と照る人

同海のさくよめ

右のまきし心あつうは 法を存するまは此の也

喚子鳥

よまくるはあはれ 世の人とよまくるはあはれ 深山思坂佛道

立秋

續拾遺

西の山より吹く風のさくよめよまくるはあはれ

旅

よまくるはあはれ 旅人あひまを 旅れは此とよま

川

よまくるはあはれ 旅人あひまを 旅れは此とよま

池

はあよりうらみ梅は梅よ此一切池のうらみなり
舍利海し次よ蓮と
あふ世より蓮乃あよむとちりなよふはれん我々

